

教室ニュースの時間—
「だれが言ったか」ごと伝える

Class_____ No._____ Name_____

 **今日のゴール** あつめた話を〈だれが told me that ＋中身〉の形で、ニュースとして班に伝えられるようになろう。

STEP 1 お手本を読んで、声に出してまねしよう。

きょうの教室ニュース

① Ms. Sato **told us that** we will have a fire drill on Friday.（先生から）

② Aki **told me that** the library has new comics.（取材で聞いた）

③ I **think that** our team will win the game tomorrow.（自分の予想は think で）

▼ 番組の締め

That's all for today's class news. Thank you for listening!

中身だけ運ぶと「うわさ」、〈だれが・だれに・何を〉を1文で運ぶと「ニュース」。人から聞いた話は told、自分の考えは think—2つを混ぜないのがキャスターの仕事。that のうしろは、ふつうの文の順のまま。

STEP 2 使える表現（この中から選んで使おう）

- ～ told me that
- ～ told us that
- I think that
- We will have ～.
- Really?
- That's news to me!（初耳）
- Who told you that?
- That's all for today.
- Thank you for listening.

STEP 3 取材しよう。2人に「みんなに知らせたいこと・最近知ったこと」を聞いて、自分のネタも1つメモ（日本語でよい）。

れい：部活の結果／行事の予定／図書室・給食の新情報—「あした役に立つ話」がいいニュース。③は自分の考え・予想でよい

	だれから聞いた？（③は「自分」）	中身のメモ（日本語でよい）
①		
②		
③		

STEP 4 メモをニュース原稿にしよう。①②は〈人 told me [us] that ＋中身〉、③は〈I think that ＋中身〉。中身は「これからのこと・いつものこと」で書く。

✓ お手本と表現バンクを見ながらでOK。まちがいを恐れず、まず書いてみよう。

教室ニュースの時間—
「だれが言ったか」ごと伝える
【つたえる・ふりかえる】

Class_____ No._____ Name_____

STEP 5 班で「きょうの教室ニュース」を放送しよう。

できたらチェック：

- ☐ ① 1人ずつキャスターになって原稿を読む（Here is today's class news. から）
- ☐ ② 聞く側は、初耳のニュースだけメモする（That's news to me!）
- ☐ ③ 気になるニュースには Who told you that? 一出どころが言えるのがニュース、言えないのがうわさ
- ☐ ④ 班で「いちばん役に立ったニュース」を1つえらんで、全体へ発表

初耳ニュースのメモ	班の代表ニュース（えらんだ理由も）

自己評価 できたところに ○ をつけよう（正直に！）

ふりかえりの観点	◎ よくできた	○ できた	△ もう少し
① 内容 言いたいことが相手に伝わった			
② 正確さ 習った表現を正しく使えた			
③ 流暢さ あまり止まらずに言えた			
④ 態度 相手を見て、聞こえる声で言えた			

ふりかえり 次はどうしたい？ できるようになったこと・次の目標を1つ書こう。

☆発展チャレンジ！ 出どころを2人にして、たしかさを上げてみよう。Aki and Ken told me that the new curry is really good. —それでも「本当か」は自分でたしかめる。導入『たしかな話、あやしい話』の続きが、ここから始まる。

先生へ（この教材のねらいと進め方）

ねらい：tell＋人＋that節を語順の練習で終わらせない。ニュースは出どころごと運ぶ—〈だれが・だれに・何を〉を1文に収める形として that節 を使わせ、「情報源を言う」を習慣にする。導入（たしかな話、あやしい話）→この1枚で、聞く側のリテラシーが発信側の習慣につながる。

この材料を選んだ理由：「先週あったことを書こう」では that節 は要らない。人から聞いた話を伝える場面だけは、中身の前に〈だれが言ったか〉を置かないとうわさになる—キャスターの原稿という枠が、その形を強制する。

対応単元：BLUE SKY 3 Unit 3「Living Side by Side」（S＋V＋O＋O の that節）。間接疑問と同居する単元なので、STEP 5 の Who told you that? と「箱の中に文が1つ」の見方が、そのまま次の文法への橋になる。

進め方・見取り：△時制の一致には踏み込まない（導入と同じ）。中身を「これから（will）・いつものこと（現在形）・できること（can）」で書かせると、told のうしろが自然にそのままの形で成立する。見るのは、that のうしろが〈ふつうの文〉か／told me と told us の使い分け／自分の考えに told を使っていないか（think との混同）。評価は裏面の4観点で。

△ 使う文法の範囲：中2までの既習＋tell＋人＋that節・think that で組んでいます。時制の一致・間接疑問・関係代名詞は使いません。